

日中貿易

090781232 劉永強

第1章 日中関係の歩み

第1節 日中関係の歩み

a 1949年中国成立→日本と冷戦

b 1950年アメリカ政府は中国戦略物資禁輸
→

日本も同調

c 1952年日本と連合国の戦争終了→サン
フランシスコ条約宣言

d 1958年 ↓

長崎事件で民間貿易影響

長崎で中国商品展示会を開催

a 60年代後半から政治の原因で貿易失速



友好貿易の十分補完

b 1972年の日中正常化→米中の接触結果

ア 中国政府が中国人を代表唯一合法政府と認知

イ 台湾が中国が不可分の領土→米国は台湾独立支持しない

第2節 日中国交回復と日中貿易の開始

- a 1969年陳義に国際情勢を検討→米軍のアジア介入を削減
- b 陳義の米中関係打開のユニークアイディアを注目→戦略上米ソの矛盾利用
- c 日中貿易制限の緩和を発表
- d 1972年9月29日に日中共同声明を発表
 - ア 台湾が中国が不可分の領土を理解
 - イ 日華条約の存続の無意義を説明

日中正常化後の貿易

ア1974年1月日中貿易委員会の設置

イ1974年4月航空協定、11月には海運協定

ウ1975年8月には漁業協定

エ日中貿易の総量1972年から2億ドル1974年32億ドルを増加

第3節 中国改革開放

- * a 鄧小平、陳曇などか主導、開放と近代化を総路線と
- * した点で現代中国の分岐点
- * b 1979年から全党の活動の重点を社会主義近代化の
- * 建設に移動
- * c 農業・工業・国防・科学四つの近代化の実現、生産力
- * の大幅な向上が必要

d 経済特区の設立

- * ア 1980年に中国政府は経済特区を設立→広東省の 深圳・珠海・汕頭、福建省の厦門
- * イ 鄧小平は経済特区を技術・管理・知識・対外政策の「四つの窓」、対外開放のモデル地区
- * ウ 四つの特区と後に指定の海南島は、香港・台湾に近い地の利と外資導入の新政策、その後の中国経済急成長の原動力

第2章 主要産業の日中間の競合と補完

第1節 市場経済導入

a 市場の魅力をカードにFTAを推進の中国

b 香港・マカオは経済緊密化協定

c 日本の産業と日中FTA



日中FTAの推進に賛意

a 自由貿易地域形成の効果



従来の輸出不可品目→輸出可

b 東アジアにおける日中経済展望



アジア地域の繁栄および日中経済関係
の強化

第2節 主要産業にみる日中間の分業

a 日本側統計は2004年の輸出は738億ドル、輸入は942

億ドル→赤字204億ドル

b 対象産業電気電子、輸送機器、機械、化学、食品

c 日本の機械・電気機械など工業製品部門優位



一次製品関連部門は中国に依頼

第3節 日本の産業と日中FTA

- * a 各種のアンケート調査によると、日本企業が最も希望
- * は日中FTAであり、シミュレーションは日本への経済効
- * 果
- * b中国の関税率が高くても技術水準の違い、中国の旺盛な需要から日本の一方的な輸出超過、産業・品目も多い。

C 鉄鋼業界

ア 日中鉄鋼貿易の状況

→日本の大幅な輸出超過

イ 日中の鉄鋼業界の状況

→中国生産過剰により悪化

